



第 113 号
発 行 者
退職校長会石川支部
内 田 賢 壽



新支部長あいさつ

内 田 賢 壽

本年度の支部役員改選により、前富岡高春支部長さんの重責を引き継ぐこととなりました。力不足の私としましてはこの任を果たせるか非常に不安なところであります。会員の皆様や役員の皆様のご協力、ご理解、ご支援をいただき本会の運営に努力していきたいと思っております。

本年度は、一名の新入会員をお迎えし計五九名での組織活動となります。本会の活動の目的をあらためて確認しますと、会員相互の親睦を深め、生活の向上を図ること、石川地方教育の振興に寄与することとあります。本年度もこれら目的達成のための諸事業を計画しています。

親睦や交流を図る事業として、旅行委員会の懇親旅行がありま

の要望書を提出します。人生百年時代と言われる昨今です。健康維持には、いつでもワクワクするような気持ちや高揚感を持つて生活すること、そして驚きや感動を忘れないことが大切であると言われています。本会の活動が、会員の皆様のさらなる健康な生活に役立つことを願いたいと思います。

令和七年度
役員一覽

顧問	西牧 庸一
支部長	富岡 高春
副支部長	内田 賢壽
評議員	田口 和憲
監事	鈴木 文雄
理事	内田 賢壽
幹事	矢吹 伸一
庶務	鈴木 英孝
事務局長	鈴木 重經
相樂 正弘	矢吹富美子
	大樂 宣和
	小針 良仁
	館 初浩

〈会 計〉	渡邊 良一
方部幹事	芳賀 徹
	草野 正夫
	小針 良仁
	富岡 信
	三森 朗
	渡邊 宏文
	塩田 明美
	真田 秀男
履歴書・功績調査委託委員会	有賀 真道

〈委員長〉	田口 和憲
〈委員〉	鈴木 文雄
	矢吹 伸一

会報編集委員会	渡辺 敏幸
〈委員長〉	館 初浩
〈委員〉	有賀 真道
	遠藤 浩
	富岡 高春

旅行委員会	蛭田 重經
〈委員長〉	矢吹富美子
〈委員〉	川崎 真裕
	富岡ケイ子

クラブ活動・世話人	蛭田 重經
★文化財	渡邊 良一
★ゴルフ	鈴木 文雄
	川崎 真裕
	館 初浩

★園芸・野草	南牧 敏幸
富岡ケイ子	

祝米寿

一年草のように

細谷 道雄

昭和五十四年、五十五年の二年間、文部省より古殿町内の各種団体を含めて道徳教育の指定を受けた。

幼稚園、小中連携教育協議会、老人会等社会教育各種団体を含め、道徳教育一色に染まった。小学校五つのいっばい運動は効果があった。

〇あいさついっぱい 〇友だちいっぱい 〇ノートいっぱい 〇あせいっぱい 〇ゆめいっぱい、に向かつて、学習や行事に精進している姿が毎日の生活の中に見られた。

指定二年目になると家庭が変わった。毎朝子どもから「おはようございます。」と。

両親は「あ：いや」とか。両親も馴れのためか、「おはよう。」とあいさつされるようになった。

しかも、祖父母にまで日々のあいさつが交わされることは大きな成果であった。

今、人間としての心の教育人格の形成はどこで積み上げられているのだろうか。苦言述べて終わる。

一年草のように、独自の花を咲かせて終わりたい。

祝米寿



感謝

棚瀬 英一

目の前に飾ってあるのは、支部総会の席上で戴いた寿詞と記念品であります。会員の皆様に祝っていただいたことに改めて感謝申し上げます。

“松風”で令和七年度「寿詞・賀寿・賀詞」該当者名簿を見たとき、高校、大学そして教員としてともに過ごした同期の姿を次々と思い起こし、懐かしさとお互いに米寿を迎えるまでになったかと一入の感がしました。

要支援1の認定を受け、少しでも体力・筋力の衰えを防ぐと週一回午前中リハビリに通所しています。有酸素運動とバランス体操の2種目で、無理をしないで安全な範囲で楽しんでいきます。

“生”の終末は、全く予想できませんが、一日一日を充実した気持ちで過ごしたいと思えます。

祝米寿



感謝の日々

角田 文代

昨年十一月より、家族の家ひまわり細沼という介護施設に入所しております。要介護4という判定です。

当施設に、過日、富岡先生が私の米寿祝のため、石川からおいでくださいました。大変感謝しております。

私も脳もあまり丈夫でない私が米寿を迎えられたことに、石川地区の退職校長会の皆様よりお祝いをしていただくことは、この上もない喜びでございます。

今まで、会費会員を自負しなにひとつ協力できなかった我が身を恥じるばかりですがこの度、恥をしのいで、米寿のお祝いをいただくことにしました。

心から感謝を申し上げると共に、会員の皆様はじめ、会員のますますの発展を祈念し、お礼のことばとします。

祝喜寿



喜寿

富岡 高春

現職を辞して今年で十七年、四月に「喜寿」になりました。退職をして始まったことに書道があります。日々練習に励み、今では年一、二回町内で実施されている展覧会に出品しています。まだまだ未熟で練習に励まなければなりません。

また、新たに始まったのが、公民館主催の古文書寺子屋の参加です。古文書のくずし字等を解説するのは非常に難解です。習うより慣れろと言われています。習っている古文書は、日本近世の史料です。

当時の生活や人間模様を知るうえで大変面白いです。喜寿を迎えても、地域や人との関わりを大切に、いろいろな活動に参加させていた

だっていることに感謝しています。今後とも健康で充実した人生を送りたいと思います。

祝喜寿



喜寿を迎えて

富岡 ケイ子

喜寿祝、昨年は金婚を祝してくれる組織、仲間、そして家族がいることにまず、感謝。喜寿という言葉に「まもなく八十歳か」と心沈む。昨日できたことが今日はできなくなるこの怖さがふとよぎる。

実際の動作の緩慢さ、物忘れ、身体の痛みが出てくる現実。まだまだあの還暦の頃の気持ち、姿だと思っていたのに。『歳を重ねる』ことⅡ『衰え』ではない。今までの経験や人との関わり思い出は強みであり幸せな宝である。

自分のライフスタイル(趣味や家族・孫との生活、畑仕事、地域貢献、病院通い等々)を大切に、必要とされている間は、人生の深さや楽しさに挑戦し歳を重ねていきたい。

そして何より社会や人々の繋がりをできるだけ長く持ち続けたいと思うこの頃である。

祝金婚



経江 重久 田 蛭

この頃思うこと

焦土と化した日本 食料不足等、幾多の苦難を克服して復興を成し遂げてきた先人たち、それを受け継ぎ頑張ってきた私たち、終戦から八十年の歴史を刻んできました。

東日本大震災、原発事故、コロナ感染症等、日常生活を一変させた災害に遭遇しても人知を結集して乗り越えてきました。以後生活様式や価値観は変化してきましたが、人間生活上、互いに交流し協力し合うことは不易です。

研修会で教養を深め、会報により情報を共有し、懇親会で飲食を共にし、旅行で見聞を広め、ボランティアで協力し合って作業をする等、退職校長会の諸活動は本当に素晴らしいと思います。

総会で人生の節目としての金婚をお祝い頂きましたこと心より御礼申し上げます。

哀悼

酒井忠男先生を偲んで



南 條 正 喜

平成元年四月より三年三月までの二年間、平田村立蓬田小学校において、教頭としてご指導いただきました。

アルバムを取り出し、酒井校長先生の写真を見つめながら、在りし日の姿を思い出すことにしました。

まず、校長先生の物静かで、一言一言丁寧な話しぶりが思い出されます。適切な指導助言をいただきました。

特に、新採用教員の校内研修に力を入れられ、大きく成長する礎を育てられました。

また、花壇づくり、校庭周辺の樹木の手入れに努力されました。美しい学習環境の中で、子どもを大切にした、明るく楽しい学校づくりに取り組まれました。

校長先生は多趣味で、特に、絵画の作品づくりに熱中することが多くありました。また、ゴルフも大好きでした。

終わりに、喪心よりご冥福をお祈りいたします。

新入会員あいさつ

ユニフォームも新たに
酒 井 修 三

まずは退職校長会石川支部への入会を認めいただきましたことに、感謝申し上げます。また、現役中は、様々な場面に於いて、会員の皆様にお力添えをいただきましたこと、改めて御礼申し上げます。

春に役職定年の道を選び、現在、新しいユニフォーム（エプロン）に袖を通し、充実した時間を過ごしています。できたばかりのこども園で、やるべきことは沢山あるのに、何をどこから・・・と模索の日々でもあります。教員時代に心がけてきた「子ども一人一人に寄り添うこと」「スタツフの声に耳を傾けること」を忘れなければ何とかなると、いよいよ楽天的です。

石尊山の麓の小さなこども園、是非一度お立ち寄りください。「ちいかわ」のエプロンでお出迎え致します。

県大会参加報告

渡 邊 良 一

令和七年六月十日、県内十六支部から百七十八名の退職校長会会員が集い、第五十九回県大会津大会が、南会津町御蔵入交流館を会場に開催されました。

午前の部は開会式に続き「米焼酎ねっか 只見で生き抜く」と題し、酒造業の「合同会社ねっか」を立ち上げた脇坂育弘氏の講演がありました。ご存じの方もおられるかと思いますが、氏の会社の米焼酎「ねっか」は数々の賞を受賞し、全国的にテレビ・ラジオ・新聞等でも取り上げられ、その方面では知る人ぞ知る名品だそうです。氏がまず始めに語ったのは、この会社はお酒を造ることが目的で始めたわけではないということ、「地域の過疎、高齢化」「稲作



農家の担い手不足」「誇れる特産品がない」これら地域が抱える課題解決のための手段が酒造りだった、ということ。前述した賞の受賞も、酒その物に対する受賞以外に、地域づくりや農業関係、地産地消や環境関係等々の受賞も数多いと。ですから会社の立ち上げから「ねっか」が商品となっていく過程での苦難や障害（氏は「高いハードル」と言っていました）は普通の企業の数倍だったと。ただ当初からの課題解決という目的意識を明確に持ち続けながら、数々の失敗や高いハードルにも知恵と工夫で対応し、地域や仲間との共同作業で常に進化・発展を遂げてきたと。失敗や挫折、それを乗り越えて成長してきた会社だとも。そして、地域づくりの大きな成功例となった今も、この地域での会社の存在意義がこの先百年続くようにと未来を見据えた計画についても語ってくれました。その一つが子供たちとの取り組みです。酒米の栽培や地域産業としての酒造りに関わってもらい、子どもたちに地域のよさやその将来性、地域づくりの必要性を感じてもらおう。そうした関わり

の中から子ども自身も課題意識を持つようになる。そして子どもが先頭となって解決に向けて活動する。それを子ども自身が地域に発信していく。それがこの先の地域になっていくと。静かな語り口の中にも、氏の地域づくりへの強い目的意識や仲間・子どもたちに対する熱い思いが伝わってくるすばらしい講演でした。

午後は伊達支部の矢館実也氏が「写真人生かきくけこ」、田村支部の安瀬一正氏が「支部の現状と活性化に向けた課題」、双葉支部の小野田敏之氏が「震災と事故後十四年、双葉の今」と題して、それぞれ発表されました。

閉会式では、初めての試みとして参加者全員での大会宣誓の唱和が行われました。また次年度は、令和八年六月十一日に西白河大会が開催されることも発表され、会の一切が終わりました。



すこやかライフ

草野 正夫

五月に大好きなミッシェンインポツシブルのファイナルレコニング(最後の清算)を見てきました。私も、今年が教員の清算の年になりそうです。今、再任用教諭として初任者研修(メンター方式)で、六人の初任者を担当しています。毎日研修が入っています。新採用の先生方の熱意に刺激を受けて、「べらぼう初任研便り」を発行しています。

今回、「健やかライフ」の紹介をしようかと思いましたが、どう考えても「すこやかつかいなライフ」を送っているもので、「すこやかライフ」としました。みなさんも、同じ境遇だと思いますが、代々家に伝わる諸々のことです。財産(粗大ごみ)、小鳥、錦鯉、盆栽、畑、母・・・。

まず、蔵や木小屋(昔はなんでも木で作った)にあった粗大ごみを大処分しました。お宝を探しましたが、みんなゴミでした。大久田の業者に頼んで十数万円近くかかりました。さらに、母のお気に入り

の松の太木が枯れたので、大久田の林業家に五万円で切っ

てもらいました。残った松をチェンソーアトにしようかと思案中です。小鳥は、全部逃げていきました。三十近く

残された鳥かごを棚倉のなじみのペットショップであらかた処分しました。

錦鯉の飼育は、水の管理がやっかいです。父が存命の頃は、十数匹いましたが、現在は八・五匹となっています。父の後追いで池から飛び出たり、病気になるったりで畑に埋葬しました。しかし、なんと去年生まれた錦鯉(これが〇・五匹)が育っているのです。

「奇跡のパンダちゃん(黒と白)」と呼んでいます。また、去年は、紅白(紅と白の錦鯉)の紅い色が抜けて白い鯉になってしまいました。双里のお菓子屋の師匠に急遽来て頂き、池の消毒を行いました。毎月の濾過器の清掃や薬品の調合?がやっかいです。

盆栽も二十数鉢程度ありますが、畑に時間をとられて、土替えや針金かけまで手が回っていません。若干枯れてしまいました。水やりや油かす等の肥料やり、剪定がやっかいです。

最後は畑です。南町一の大農園があります。母から引き

継いで早々耕運機を購入して、定時退勤を心掛けて野菜作りに精を出しています。時々、母の監視の目が厳しくて、「トマトとピーマンが足りない!」とどどん食ってやつから!と気合いを入られます。今年、なぜか、ざる菊を二十

ぐらい古殿の師匠から頂きました。秋には見頃になると思いますので、皆さん是非おいでください。母は、「食えないのを植えた!」とお冠です。九十二歳です。健やか?で、一番やっかいです。



情報室

おめでとうございます

◆米寿

細谷 道雄様
吾妻 幹廣様
棚瀬 英一様
角田 文代様

◆喜寿

富岡 高春様
富岡 ケイ子様

◆金婚

蛭田 重経様
久江 様

事務連絡

●現職校長との合同研修会
八月二十日

●松風会懇親旅行
九月二十九日(予定)

●絵手紙

十月上旬予定

●現職・退職校長交流コンペ
十一月二十三日

編集後記

「令和の米騒動」と連日小泉農相の言動が取り上げられているが、私はご先祖様からの、田畑を受け継ぎ、米作りを行っている。冬のぼかし飼



料(有機)作りに始まり、比重選、田植え、水管理、草刈り、田押し車、土用干しと、

稲の成長に合わせ、関わりあうのは、教職の現場にも似ている。稲は、我が教え子と同じとも思える。肥料散布のむらは、即生育に影響し啖啄同時が問われる。ゆえに、卒業生を送り出す感動には及ばずとも、収穫の喜びは格別である。

しかし、最近感じる事は、どんなに抗おうとも、跳ね返される自然の力、そして、同時に、知らずのうちに受けている自然からの恩恵。それは、自然をそのまま、先人・先輩と言ひ換えても、しつくりと心に落ちてくる。ご多用の中、原稿をお寄せ頂いた皆さま、

ありがとうございます。編集に際し、今後の自分に思いを巡らします。

「人生は、年齢で語ってはいけない」とは、ある人の言葉です。諸先輩各位、またまた、私達のこの先を照らして頂きたい。

館 初 浩

館 初 浩

館 初 浩

館 初 浩

